

今月の農業情報

尾張

都市近郊水田で生き物観察会を開催

と き 平成30年9月12日（水）

と ころ 北名古屋市熊之庄北

農業改良普及課は「地域戦略促進支援事業」を活用し、西春日井地域において、地域住民参加による高付加価値米づくりに取り組んでいます。同事業で実施している展示ほ場で、地域住民有志、市と生き物観察会を開催しました。数日前の大雨の影響か水田魚道において魚の遡上は見られませんでした。水田及び水路でメダカやカエルなど多数の水生生物が確認できました。参加者は都市近郊水田での生物多様性を改めて認識していました。



【水田魚道に設置した網で水生生物を確認する地域住民代表】

農業改良普及課からは、機械除草や化学肥料を慣行の5割以下に削減した高付加価値米の取組の途中経過を説明し、展示結果についてもまとまり次第、地域住民有志に説明することになりました。また、農業総合試験場も参加し、水田魚道や脱出ネットについて他地域での設置事例や具体的な設置方法の解説がありました。

なお、当日この地域住民有志の名称が「七人のメダカのおじさん」に決まりました。農業改良普及課は、今後このメンバーと連携し持続可能な都市近郊における水田農業の確立をめざしていきます。

海 部

青年農業士、ブドウ狩り園の集客ノウハウを学ぶ

と き 平成30年9月6日（木）

と ころ 岡崎駒立ぶどう狩り組合 柴久園（岡崎市駒立町）

海部地域の青年農業士で組織する「海部青年農業士の会」は、自身の経営力向上のため、狩り園と直売により高収益を実現しているブドウ農家「岡崎駒立ぶどう狩り組合 柴久園」の取組事例を調査しました。

園主の柴田耕平氏より、岡崎駒立ぶどう狩り組合及び柴久園の取り組みについて説明を受けました。組合の最大の特徴は、時間制限なしの食べ放題制とし、客の回転率を上げるより、満足度を上げることを選んだ点です。親子連れで来てもらい、一日中ゆっくりと遊んで満足してもらうために遊具などの充実を図っています。また更に、柴久園独自の取組には、ピザづくり体験があります。客が生地伸ばしからトッピングまで行い、駒立の自然の中で石窯で焼き上げたアツアツのピザを食べてもらいます。これら取組の成果として、年間来場者数は右肩上がり続けているそうです。



【園主より独自の集客ノウハウを学ぶ】

海部青年農業士の会では狩り園を実施している会員はいませんが、消費者ニーズを的確に捉え、消費者の満足度を上げることによりリピーターを確保する考え方に、参加者は大いに参考になった様子でありました。

農業改良普及課は、今後も青年農業士の資質向上につながる活動を積極的に支援していきます。

知多

「愛知123号」、猛暑に負けず1等米に

とき 平成30年8月23日（木）

ところ 常滑市、知多郡美浜町

愛知県育成の水稻高温耐性品種「愛知123号」については、県域で「『愛知123号』ブランド化推進協議会」が設立され、高品質・良食味生産によるブランド化を目指しています。今年度、知多地域では、2名の生産者が栽培し、農業改良普及課は、協議会と連携し、高品質・良食味生産に向けた栽培指導を行っています。



【「愛知123号」の生産ほ場】

8月23日にJAあいち知多美浜営農センターで「愛知123号」の農産物検査が行われ、常滑市で栽培されたものが全量1等米として出荷されることとなりました。当地域における同熟期の品種「コシヒカリ」では、例年、高温による白未熟粒の発生が多く、記録的猛暑である本年も等級低下が問題となっています。こうした状況の中、1等米となった常滑市の生産者は、「高温耐性は申し分ない」と話していました。

また、惜しくも2等米となってしまった知多郡美浜町の生産者も、「整粒歩合により2等米となったが、白未熟粒は少なかった」と、高温耐性を評価している様子でした。

今後は、収量・品質調査、食味分析等を行い、協議会で「愛知123号」の高品質・良食味生産体系を検討していきます。

西三河

「安城梨」をより身近に！親子体験イベントを開催

とき 平成30年8月25日（土）

ところ 安城市赤松町

JAあいち中央管内のナシ産地は、高齢化により、産地の存続が危ぶまれています。そこで、JAあいち中央は、平成28年度から「産地活性化プロジェクトチーム」を設置し、対策に取り組んでいます。

その取組の一環として、部会では、消費者に「安城梨」について知ってもらい、ブランド力を強化するため、夏休み期間中に小学生とその親を対象とした体験イベントを実施しました。農業改良普及課は当日の運営を支援しました。



【選果機の仕組みに興味をもつ子どもたち】

イベントには管内各地から応募のあった13組45名が参加し、部会員によるナシ栽培の話、選果場見学、野菜ソムリエによるナシのクイズや、豊水を使用したナシ料理の試食を体験しました。参加者からは、「選果機で梨の内部までチェックできるのがすごい。学んだことを子どもの自由研究に活かしたい。」「選果機を見学できて感動した。これからも安城の農産物を食べて貢献したい。」と好評であり、「安城梨」をより身近に感じ、購入意欲も増した様子でした。

農業改良普及課は、今後も産地ブランド力強化に向け支援していきます。

と き 平成30年8月9日（木）

ところ 新城市作手地区

豊田加茂青年農業士会が視察研修会を開催しました。今回、自らの農業経営改善の参考となる視察先を、青年農業士自らが探して選定・依頼し、新城市のイチゴ栽培農家と、茶と菌床シイタケの複合経営農家の2か所を、会員4名が訪問しました。

イチゴ農家では、「はれの日」需要を見込んだ生産技術開発と顧客の開拓を行い、大粒イチゴを一粒千円で有利販売している状況を視察しました。

茶と菌床シイタケの複合経営農家では、作手地区の夏の涼しい環境と豊富な水が菌床シイタケ作りに好適で、主力の収益作物になったとの説明がありました。

青年農業士は2戸の農家の話しを真剣に聞き、取引先の開拓の経緯、栽培概要、経営収支の状況などを質問していました。今回の視察先は、参加した青年農業士の栽培作物とは異なりますが、2戸の農家から聞いた考え方を、自己の農業経営に生かす方法を模索している様子でした。

豊田加茂青年農業士会では、毎年、県内と県外の視察研修会を行っています。農業改良普及課は自主的な運営となるよう支援しています。



【視察先農家の話しを聞く青年農業士】

と き 平成30年8月22日（水）

ところ 愛知東農業協同組合作手営農センター（新城市）、現地栽培ハウス（同）

新城市作手地区では夏季冷涼な気候を生かし、品質の高い「奥三河ほうれん草」を生産しており、農業改良普及課は技術的支援や新規栽培者の確保支援などを行っています。

本年度、当地区で「機械収穫の実証と産地のPR」を目的に「農業生産力パワーアッププロジェクト推進事業」に取り組んでおり、その活動内容の紹介や生産者との意見交換等を目的に森岡副知事による現地調査が行われました。

意見交換で生産者は、「新たなハウレンソウ産地の歴史を作りたい」、「自分たちの取組を見た人が新規就農したくなるような経営を目指したい」など抱負を熱く語っていました。副知事は試食したハウレンソウに「うまいっ！もっと高品質をPRして」と太鼓判を押し、生産者に経営カイゼンの秘訣を伝授するとともに、「県内で最もチャレンジ精神に溢れた生産者に会えた。これからもがんばって欲しい」とエールを送りました。



【副知事と意見交換をする生産者】



【「新たな歴史を作りたい」と語る生産者（右）】

と き 平成30年8月

ところ 豊川市

J Aひまわりスプレーマム部会は、燃油価格高騰緊急対策（25～27年度）を活用し、25名が計5.7haにヒートポンプを導入しました。農業改良普及課は、このヒートポンプを夏場の高温対策にも活用するため26年度から夜冷技術の確立に取り組んできましたが、スプレーギクの夏秋系品種は比較的暑さに強く、夜冷の実施はごく一部に留まっていました。

今夏は、異例の暑さで最大の需要期である8月旧盆向けの作型に大幅な開花遅れが懸念されたことから、ヒートポンプによる夜冷の実施が一気に拡大しました。全国的な品薄・高単価が予期されたことも、実施を後押しする要因となりました。

巡回や聞き取りによりその効果を確認したところ、短期間の夜冷でも、開花遅延の軽減や花色、花型など品質の向上がみられました。また、ハウス内で作業をする際にヒートポンプを冷房利用する生産者もあり、「もっと早く使えばよかった」などの声が聞かれました。

今後もヒートポンプのさらなる有効利用に向けて、費用対効果を含め、検討を続けていきます。



【ハウスに設置されたヒートポンプ】

と き 平成30年9月7日（金）

ところ サンテパルクたはら（田原市）

田原市4Hクラブ連絡協議会が、ジャンボカボチャコンテスト20周年記念大会を開催しました。本コンテストは、保育園児や一般市民にジャンボカボチャの栽培をとおして、農産物に親しんでもらうことと4HクラブのPRのために行っており毎年好評を博しています。

クラブ員は節目のコンテストを盛り上げようと、20kgに最も近いカボチャを20周年記念特別賞として表彰する等、20周年ならではの大会にするため知恵を絞りました。

また、保育園に少しでも大きなカボチャを出展してもらおうと、クラブ員が毎週のように保育園へと通い、水やりや追肥の仕方などを教えました。今年は、夏の高温と台風の影響でジャンボカボチャ栽培には厳しい年となりましたが、91点と多くの出品がありました。クラブ員らは「がんばって栽培方法を教えた甲斐があった」など満足した様子でした。

農業改良普及課は、新規参加者の開拓や展示方法の改善など、クラブ員が大会を盛り上げていけるよう支援していきます。



【受賞を喜ぶ園児たち】